

令和2年度 大学の世界展開力強化事業 審査結果表

大 学 名	秋田大学、九州大学	タイプ	A②
事 業 名	南部アフリカの持続的資源開発を先導するスマートマイニング中核人材の育成		
海外の相手大学	ヴィッツウォーターズランド大学、ザンビア大学、テテ工科大学、ボツワナ国際科学技術大学、ボツワナ大学		

〔評価コメント〕

本事業計画は、貴学の提唱するスマートマイニング（これからの資源情報学）という今日的な重要性が極めて高く、日本とアフリカ諸国の関係においても重要な分野において、意欲的な連携事業を構築していることは高く評価できる。アフリカ諸国の交流国は4か国に跨り、日本国内では資源開発（鉱山学）に関する教育研究に蓄積のある秋田大学、九州大学と北海道大学の3大学が連携・協力して実施するものであり、自国資源の乏しい我が国にとっても本事業は意義のあるものとなっている。

また、2016年にボツワナ国際科学技術大学（BIUST）内に秋田大学オフィスが立ち上げられ、交流実績に基づき、学部から修士、そして博士課程進学へのプロセスとプログラムが整備されている。デュアル・ディグリー・プログラムへの発展も視野に入れており、高い教育効果が期待できる。交流学生数についても高い数字を見込んでおり、特にオンラインでの共同学習は質・量ともに充実した内容となっている。さらに、本教育プログラムが完成後には、資源素材学会等を通じて他大学へも展開することが想定されているとともに、両国での受入学生数に加え、教員の双方向派遣も計画に組み込まれるなど、本事業の継続・拡大にも期待ができる。

一方で、国内大学の連携において生じるメリットは明確に説明されているが、海外交流先の4か国と連携することによって期待される効果がどのようなものであるか不明である。また、企業との連携をさらに進め、今後、インターンシップやOJTトレーニングを実施することが望まれる。

最後に、今回選定された秋田大学と九州大学においては、将来の我が国と相手国・地域との関係を見据え、質保証を伴う国際教育連携の先導的モデルに中心となって取り組む拠点大学であるということの意義とその責任、期待の重さを認識し、事業内容の実現に向け真摯に取り組まれることを強く要請する。